

令和 8 年度 第 1 回 羽島市上下水道事業 経営審議会

羽島市新水道ビジョンの改定について

羽島市第3期水道整備計画の策定に伴う適正料金の確保

報告内容

1. 羽島市水道事業の概要
2. 羽島市水道事業の課題
3. 整備計画
4. 財政収支予測と料金改定
5. まとめ

1. 羽島市水道事業の概要

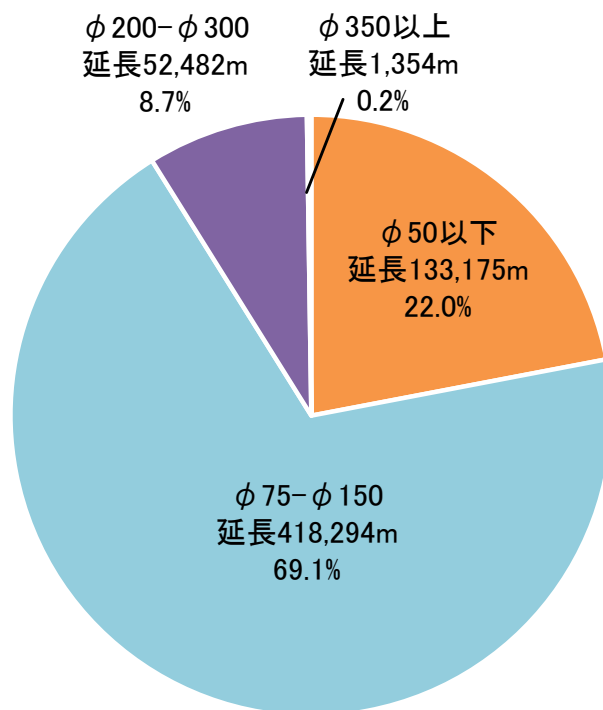
羽島市全域の60,980人の水道利用者へ、
一日最大26,582m³の水道水を給水。

表1.1 水道事業概要

給水対象区域	羽島市全域	
給水区域面積	43.07 k m ²	
事業規模 (R7)	給水人口	60,980 人
	1日最大給水量	26,582 m ³ /日
	1人1日最大給水量	436 L/人/日

1. 羽島市水道事業の概要

配水管の総延長は約600km。
そのうち口径φ200mm以上の
管は全体の約9%。



配水管総延長：605.3km

図1.3 配水管延長 (R7)

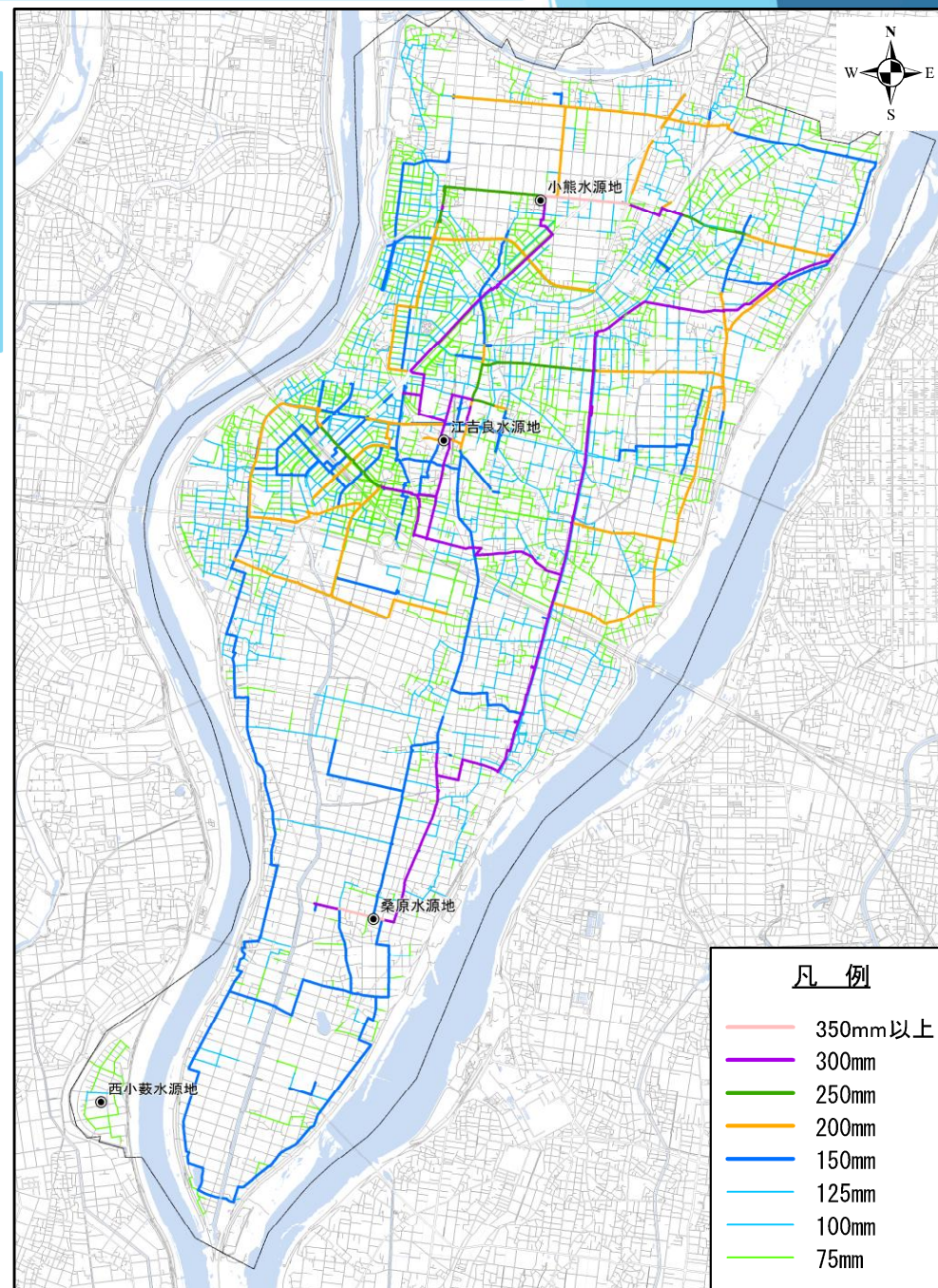


図1.4 配水管網図

2. 羽島市水道事業の課題

2.1 給水人口減少に伴う料金収入の減少

市内の給水人口は減少傾向にあり
水道料金による収入が減少する見込み。

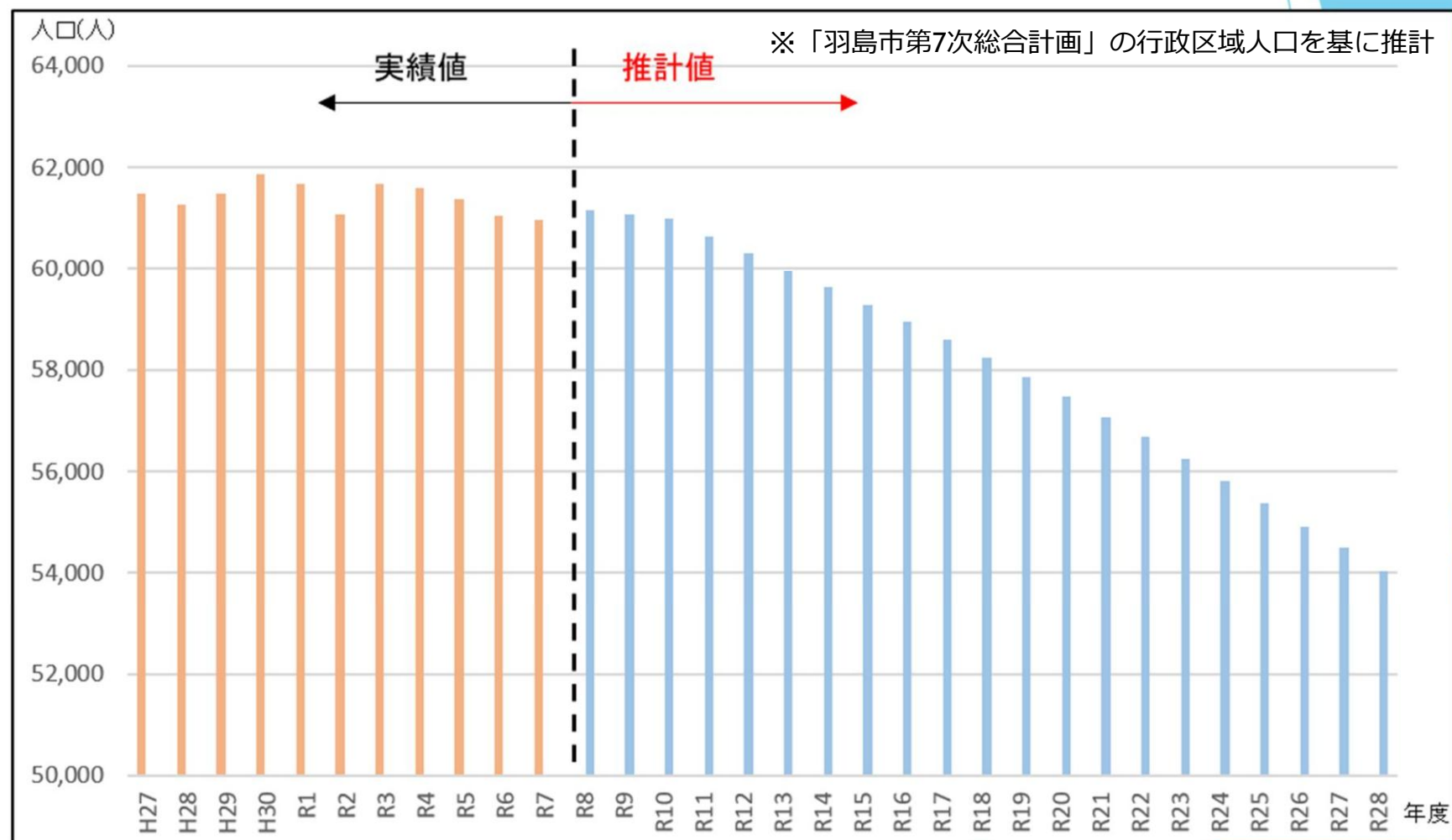


図2.1 羽島市給水人口の推移

2. 羽島市水道事業の課題

2.2 基幹施設の耐震化

耐震性を有する配水池の建設は完了済み、
管理棟と滅菌室の耐震化が未完了。

表2.1 未耐震化の基幹施設

水源地	施設名	築造年度	規模及び構造	耐震判断
小熊	配水池	S51・R1	PC4,000、PC2,000	耐震性-有(増設)
	取水井	S51	φ 600 H=150、φ 500 H=145	耐震性-低
	管理棟	S51	RC造り平屋建てA=312m ²	基礎NG
	滅菌室	S51	RC造り平屋建てA=28m ²	NG
江吉良	配水池	H12・H29	RC1,510、RC3,000	耐震性-有
	取水井	S36	φ 500 H=150、φ 400 H=135	耐震性-中
	管理棟	H24	RC造り2階建てA=648m ²	耐震性-有
	滅菌室	H11	CB造り平屋建てA=14m ²	NG
桑原	配水池	S48・R2	PC2,000、PC3,000	耐震性-有(増設)
	取水井	S48	φ 600 H=152、φ 500 H=150	耐震性-低
	管理棟	S48	RC造り平屋建てA=312m ²	基礎NG
	滅菌室	S50	RC造り平屋建てA=16m ²	NG
西小藪	取水井	S49	φ 250 H=200、φ 500 H=145	耐震性-低
	管理棟(滅菌室)	S49	プレハブ平屋 A=10m ²	NG

2. 羽島市水道事業の課題

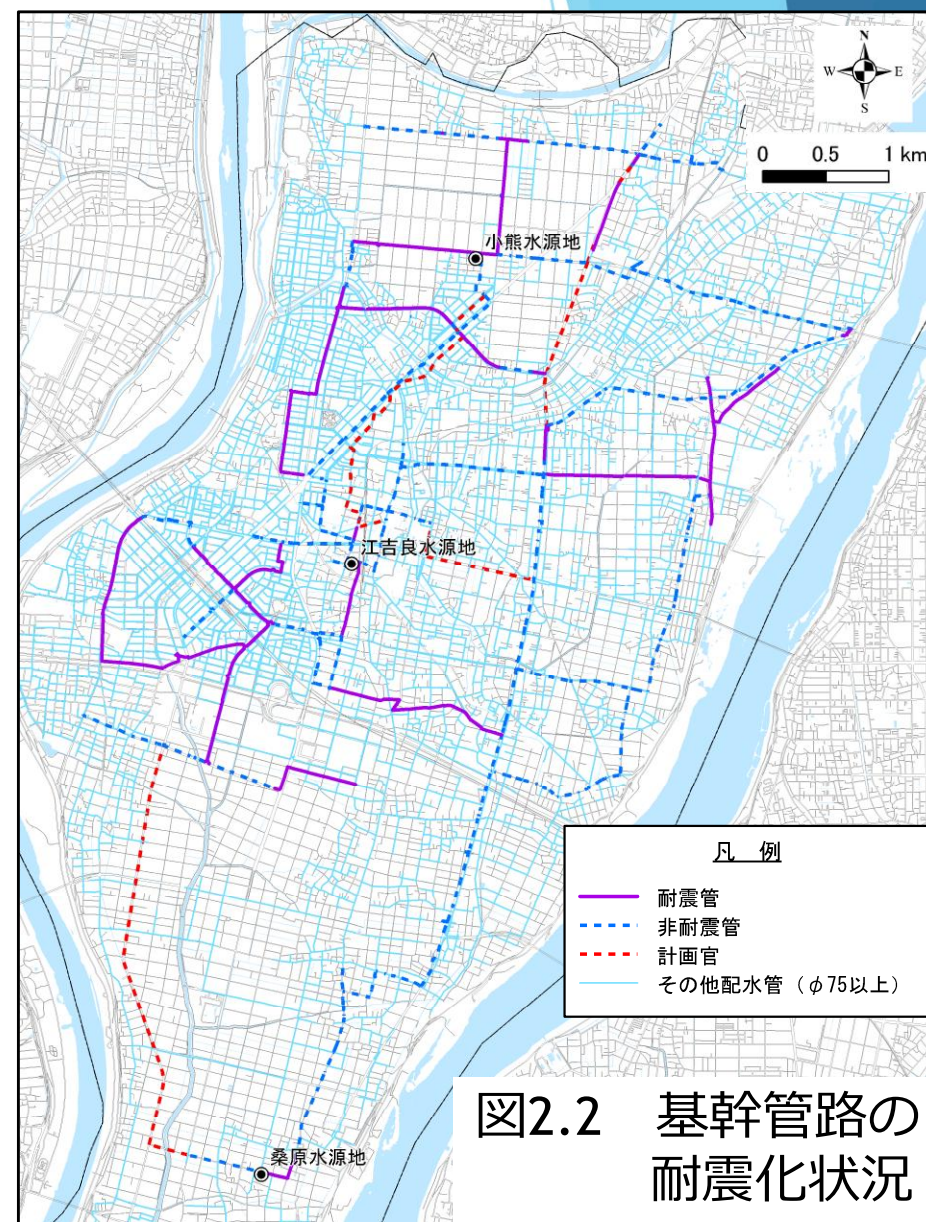
2.3 基幹管路の耐震化

口径φ200mm以上の基幹管路の耐震化は、目標耐震適合率を目指し引続き整備が必要。

表2.2 基幹管路の耐震化状況

	令和7年度末
基幹管路総延長	62.0km※
耐震化済延長	34.7km
耐震適合率	55.8%
目標耐震適合率	令和10年：60% 令和13年：64% 令和16年：70%

※見直し前の値（今回見直し後59.6km）



2. 羽島市水道事業の課題

2.4 配水管の老朽化

布設から60年を経過した老朽管が、令和8年度末時点で延長は67km。令和18年度末時点で延長は177km。
計画的な更新が必要。

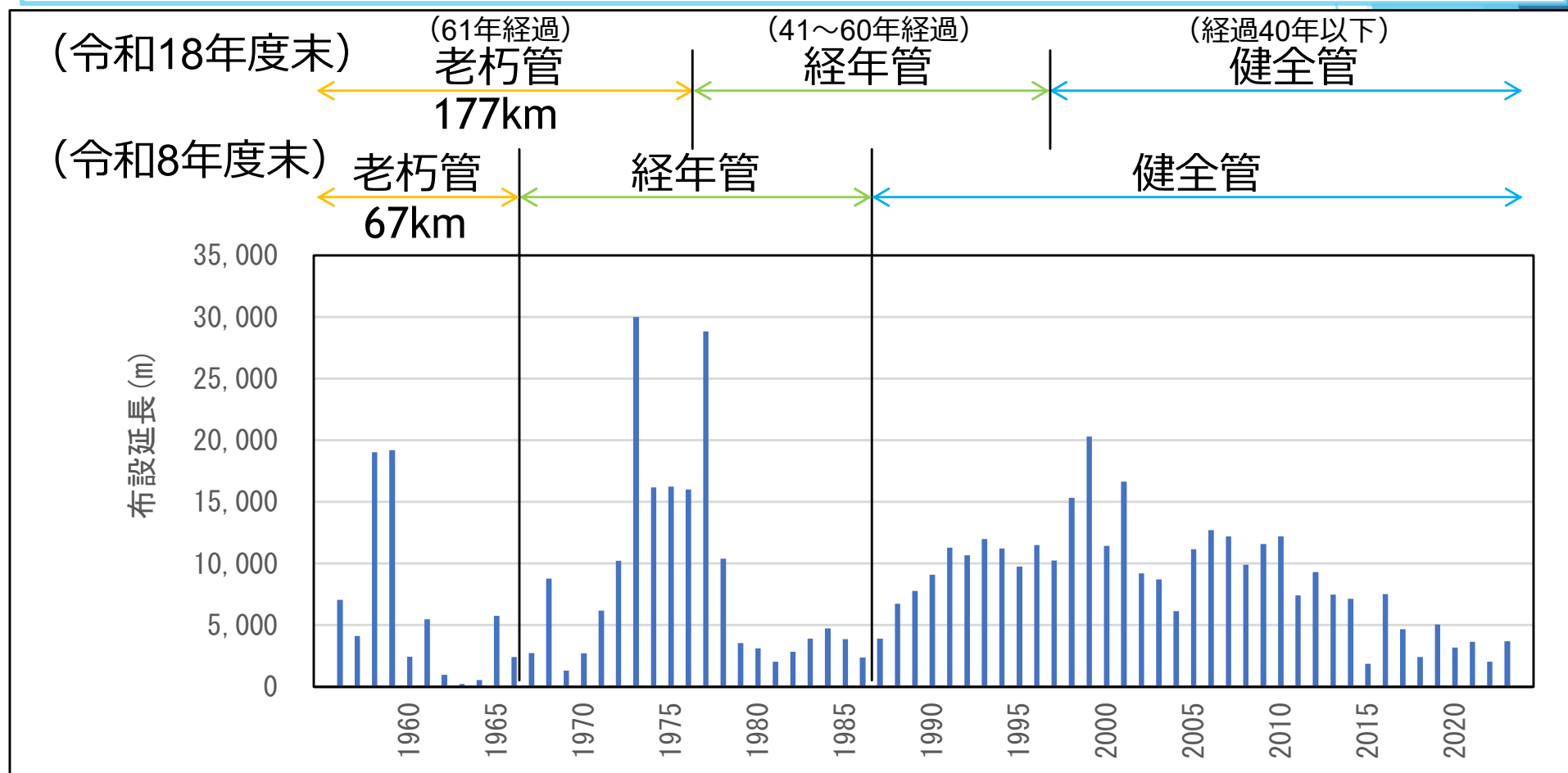


図2.3 年度別布設延長と老朽管延長

2. 羽島市水道事業の課題

2.4 配水管の老朽化

老朽管は全市に分布。リスク高路線・修繕箇所も多数あり。

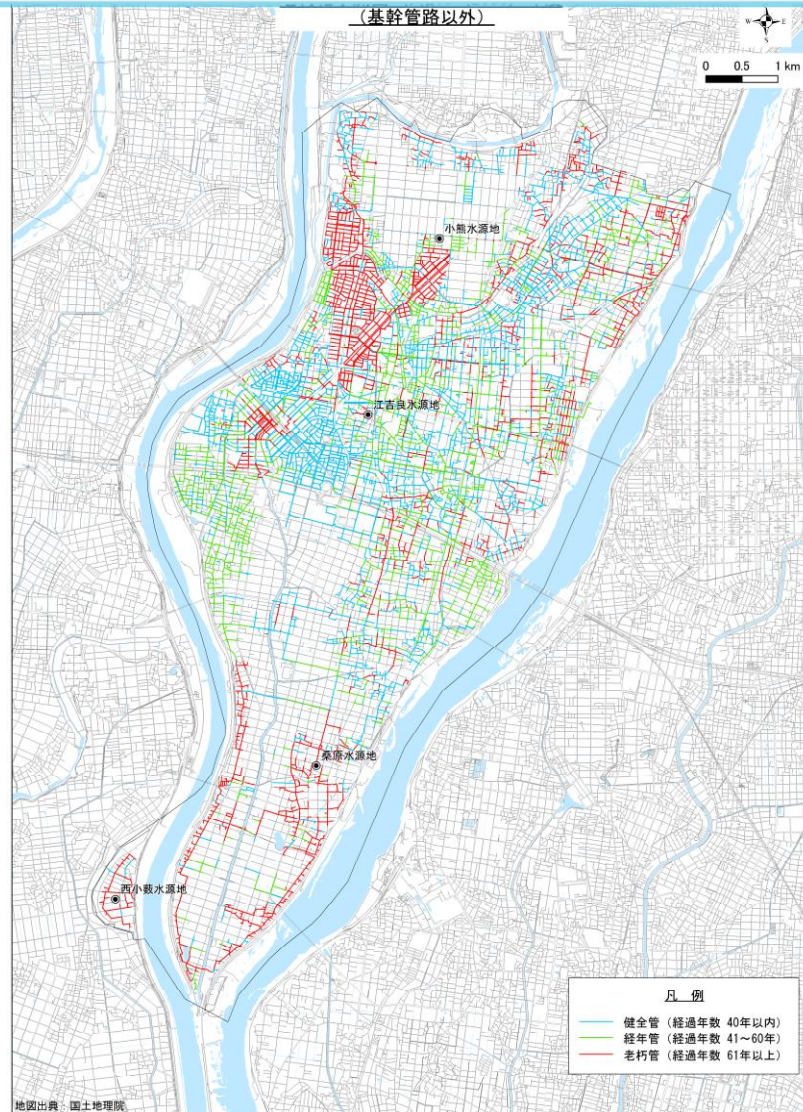


図2.4 老朽管分布図（令和18年度）

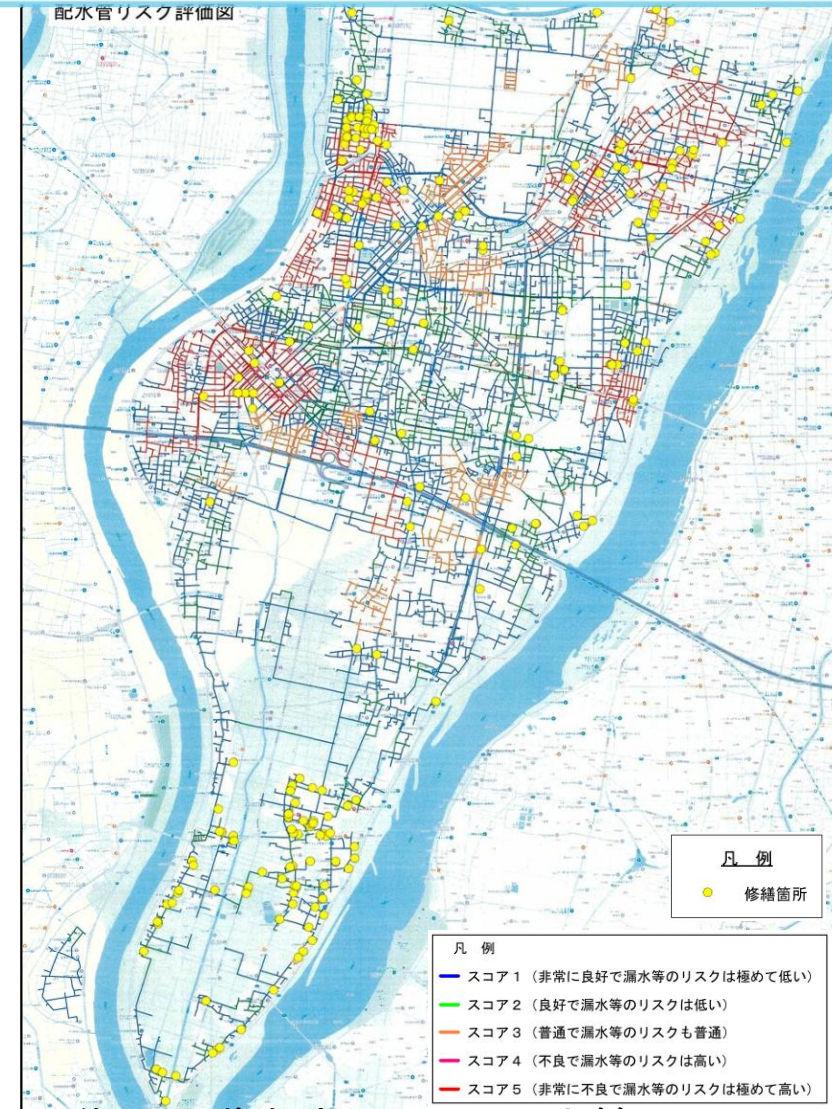


図2.5衛星画像解析による配水管リスク評価と修繕実績図

3. 整備計画

3.1 基幹施設の更新

令和18年度までに、
小熊水源地管理棟と西小薮水源地管理棟を更新。

表3.1 基幹施設の更新計画

年度	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19 以降
小熊 水源地			設計	土地 購入	管理棟更新工事							滅菌室
江吉良 水源地												滅菌室
桑原 水源地												管理棟 滅菌室
西小薮 水源地									設計	管理棟 更新工事		

3. 整備計画

3.2 基幹管路の耐震化

年間約700mの基幹管路の更新を行い、
耐震適合率を令和18年度に72.5%を目標。

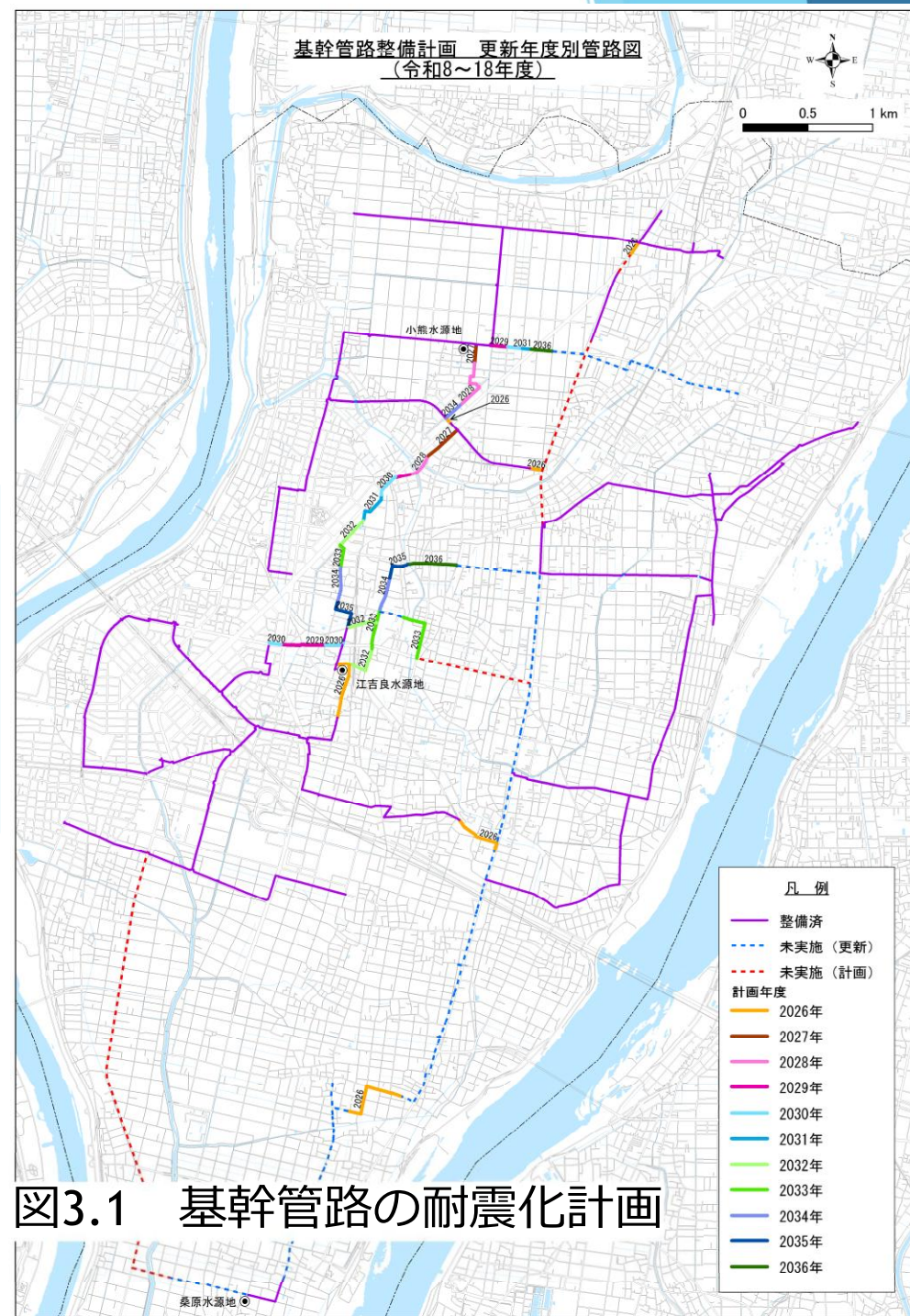
表3.2 基幹管路整備計画

年次計画 整備事業	2026 ～R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18
年度別耐震化整備延長 (m)	36,532	465	890	558	630	675	765	715	640	695	727
累計延長 (m)	36,532	36,997	37,887	38,446	39,076	39,751	40,516	41,231	41,871	42,566	43,293
耐震適合率 (%)	58.9	62.0	63.5	64.4	65.5	66.6	67.9	69.1	70.1	71.3	72.5
目標耐震適合率			60%目標			64%目標			70%目標		
備考	見込	計画値									

3. 整備計画

3.2 基幹管路の耐震化

令和18年度までに
小熊水源地と江吉良水源地
を結ぶ路線を中心に
耐震化を計画。



3. 整備計画

3.3 老朽管の更新

令和8年度末時点で60年以上経過した老朽管を優先し、
口径φ100～φ150の配水管に限定して更新。

表3.3 老朽管更新対象の絞込（R9～R18）

更新 対象 条件	①	布設年	令和8年度末時点で60年以上経過した管 (昭和41年以前に布設の管)
	②	口径	φ100～φ150に限定
	③	リスク評価 漏水実績	衛星画像解析によるリスク評価、修繕実績による絞り込み
対象管延長			約177km⇒ ①により約67km⇒ ②③により約7km
更新に要する事業費			1,034百万円

注1：老朽管の定義：法定耐用年数（40年）の1.5倍（60年）を経過した管

注2：更新に要する事業費は現時点で積算した費用

3. 整備計画

3.3 老朽管の更新

優先して更新する老朽管
約7kmを抽出。

条件①60年以上経過した管（R8年度末）

条件②φ100～φ150に限定

条件③衛星画像解析のリスク評価と
修繕実績

注：「老朽管対策エリア」は、衛星画像解析
による配水管リスク評価でリスクが高い
と評価された路線と修繕実績の多い区域
を抽出しました。

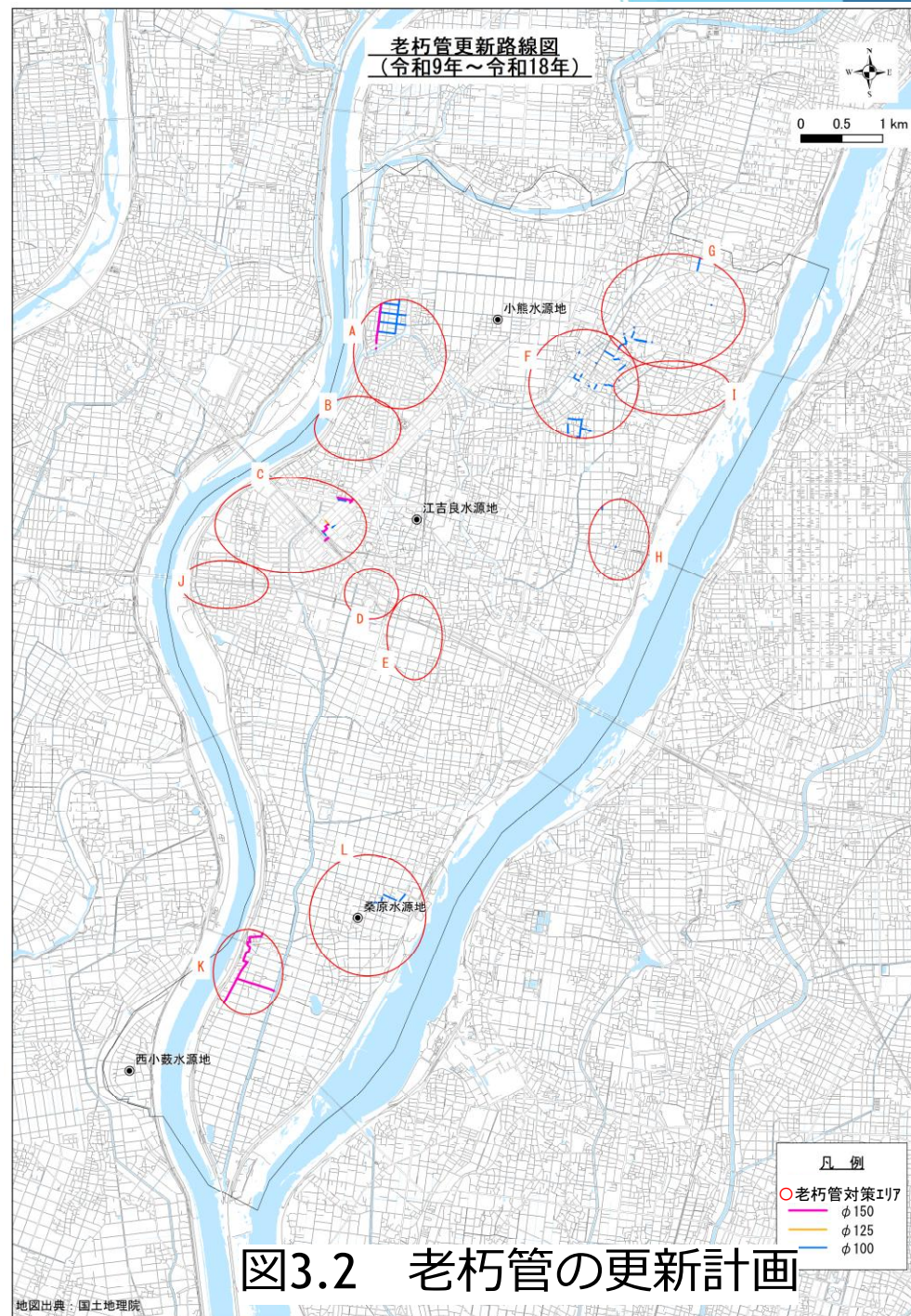


図3.2 老朽管の更新計画

4. 財政収支予測と料金改定

4.1 経営の見通し

基幹管路を、第2期水道整備計画のまま整備した場合、令和11年度に費用が、収益を上回り赤字となる。

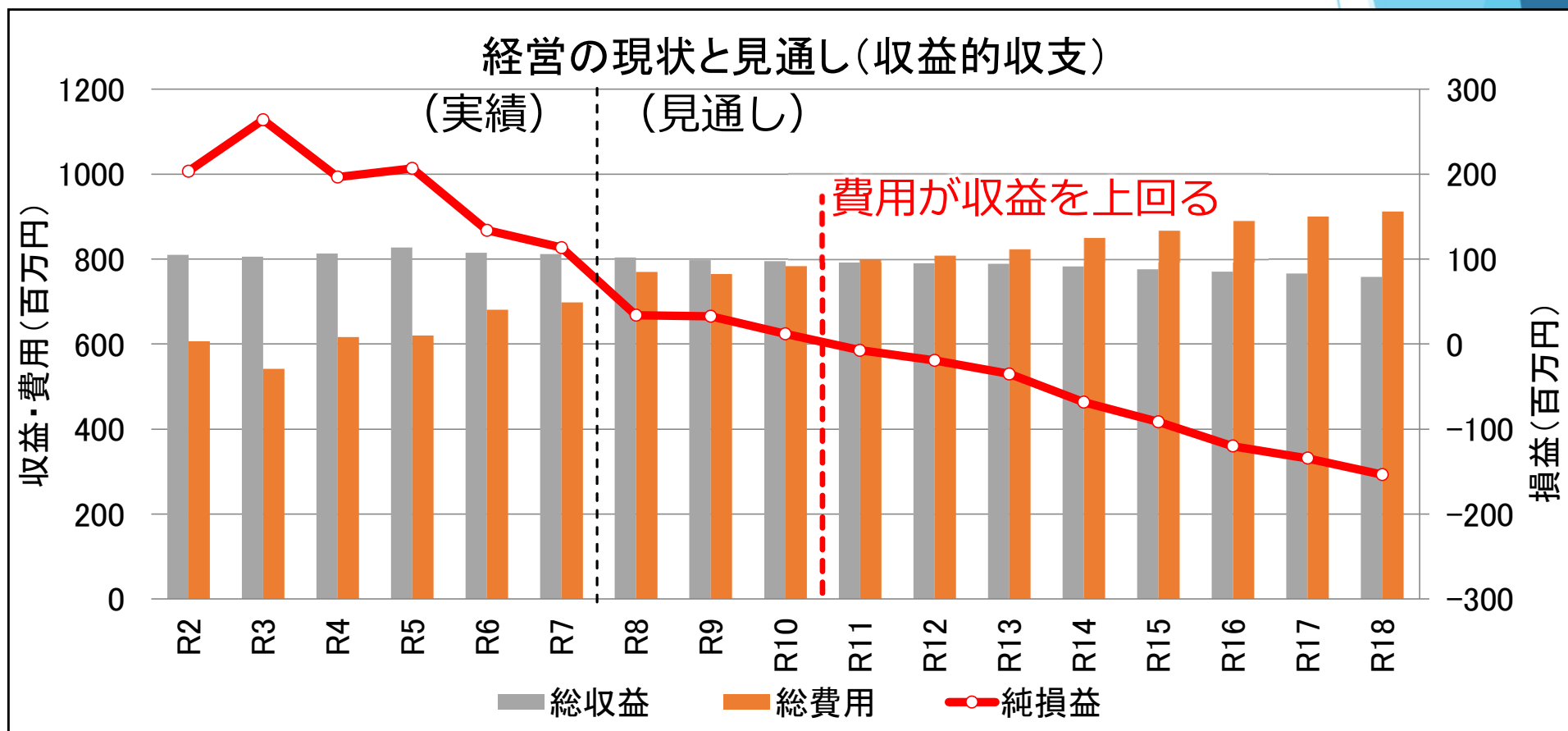


図4.1 経営の見通し (収益的収支、従来型)

4. 財政収支予測と料金改定

4.1 経営の見通し

基幹管路を、第2期水道整備計画のまま整備した場合、令和10年度に資金残額がゼロとなり従来の事業継続が困難となる。

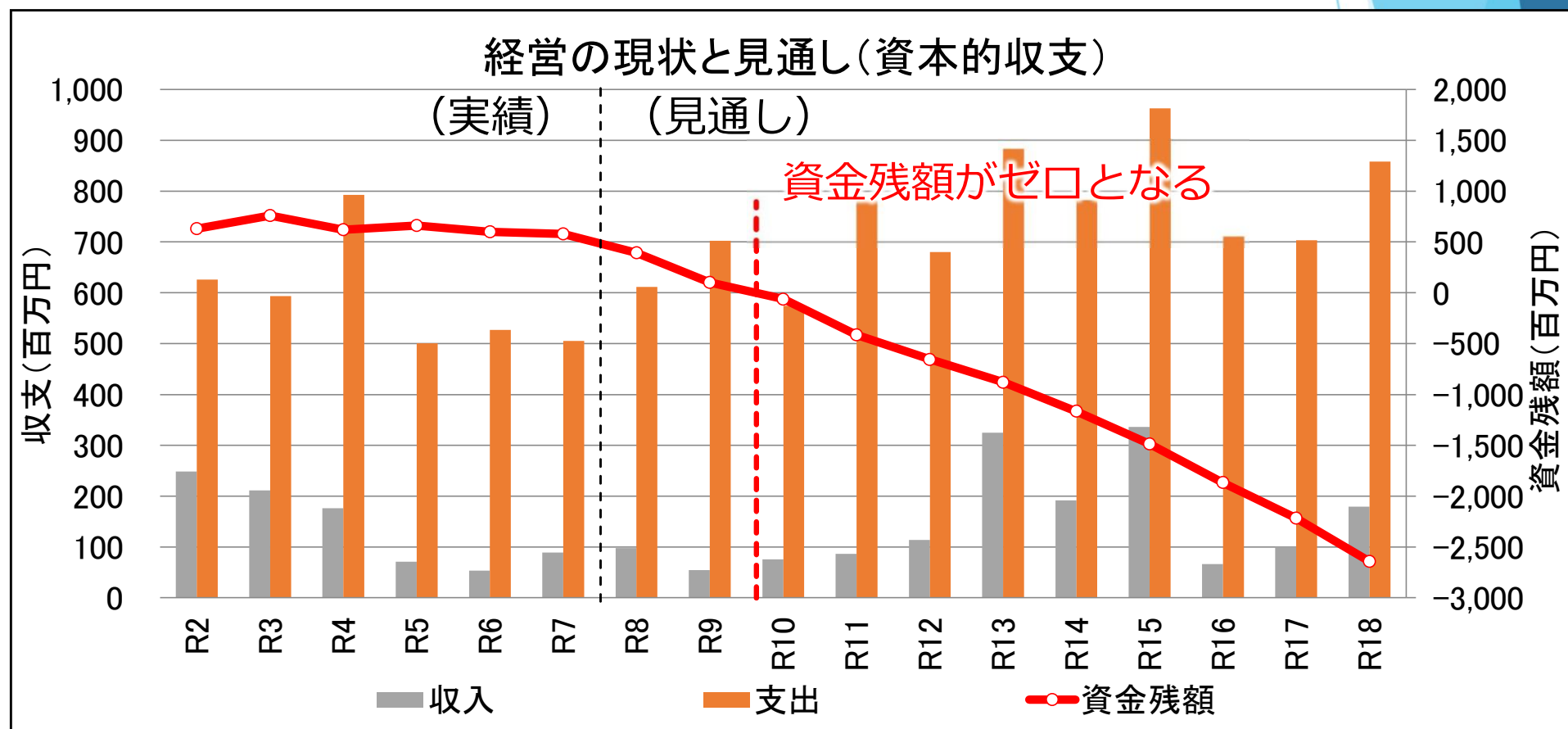


図4.2 経営の見通し (資本的収支、従来型)

4. 財政収支予測と料金改定

4.2 整備規模の見直し

水道事業を継続するため、基幹管路の耐震化整備の規模を調整し抑制した計画へ見直しをする。

表4.1 整備事業概算工事費（R9～R18、見直し型）

区 分		事業費（百万円）
水源地整備費		1,495
基幹管路整備費		3,201 ⇒ 2,111
管路整備費	老朽管更新工事	1,034
	配水管（基幹管路以外）整備工事	1,173
その他		97
計		7,001 ⇒ 5,911

4. 財政収支予測と料金改定

4.2 整備規模の見直し

基幹管路の耐震化整備を抑制しても、令和11年度に資金残高がなくなるため、令和11年度より料金改定が必要。

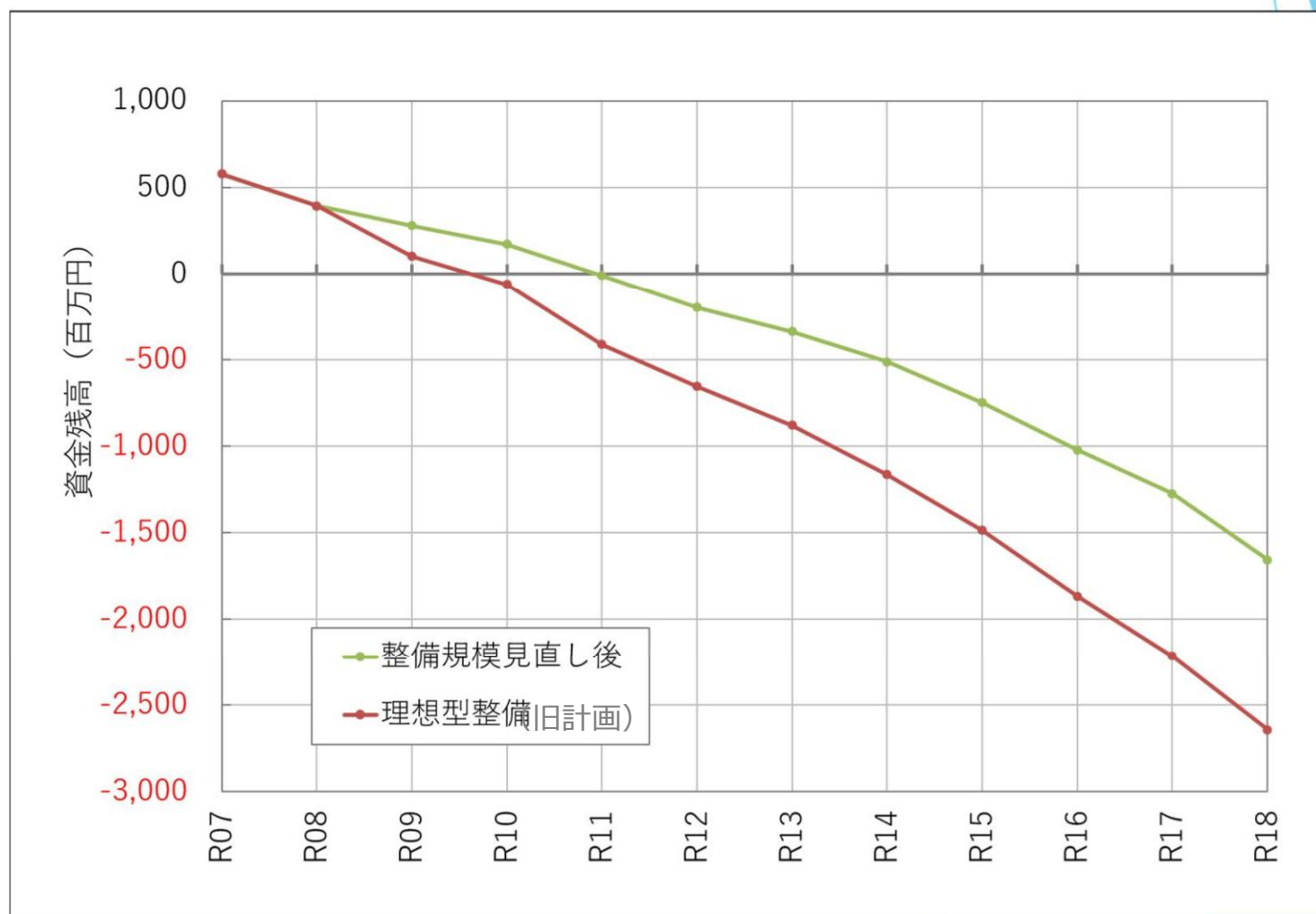


図4.3 整備規模見直し後の資金残高の推移

4. 財政収支予測と料金改定

4.3 財源確保の検討

- ・ 前項より整備規模を抑制しても財源不足であり
従来の健全経営の持続は困難
- ・ 老朽管更新も可能な限り実施が必要



財源確保のため水道料金の改定が必要

4. 財政収支予測と料金改定

4.4 料金改定案

基幹施設 → 整備内容はそのまま

基幹管路 → 整備延長10.4kmから6.8kmへ減少

老朽管 → 抽出した約7kmの整備費は約10億円
1.0億円/年が必要（基準）

0.5億円/年の更新の場合	料金改定率30%が必要
1.0億円/年の更新の場合	料金改定率40%が必要
1.5億円/年の更新の場合	料金改定率50%が必要

料金改定率を30%・40%・50%の3ケースで比較

（注）：料金改定は令和11年からとし、
老朽管工事費は令和9・10年は年間5千万円とする

4. 財政収支予測と料金改定

4.4 料金改定案

表4.2 料金改定案と整備内容（R9～R18）

料金改定案	整備内容（R9～R18）			総工事費
	基幹施設	基幹管路	老朽管	
		整備延長（上段） R16耐震適合率（下段）	工事費（上段） 更新総延長（下段）	
従来	小熊水源地 管理棟、 西小薮水源地 管理棟	10.4km（旧計画） 73.8%（>目標70%）	1.0億円/年（9億円/10年） 約7km	70億円
案① 改定率30%		6.8km（必要最小限） 70.1%（>目標70%）	0.5億円/年（5億円/10年） 約4km	54億円
案② 改定率40%			1.0億円/年（9億円/10年） 約7km	59億円
案③ 改定率50%			1.5億円/年（13億円/10年） 約10km	64億円

（注）：料金改定は令和11年からとし、
老朽管工事費は令和9・10年は年間5千万円とする

4. 財政収支予測と料金改定

4.4 料金改定案

表4.3 老朽管可能更新率

	老朽管更新延長 (優先的に更新 する老朽管)	目標年（令和18年度）に おける更新延長と更新率	老朽管を更新するの に必要な年数
案① 改定率30%	7,079m	3,820m（53%）	19年
案② 改定率40%		6,868m（97%）	11年
案③ 改定率50%		9,924m（140%）	8年

4. 財政収支予測と料金改定

4.4 料金改定案

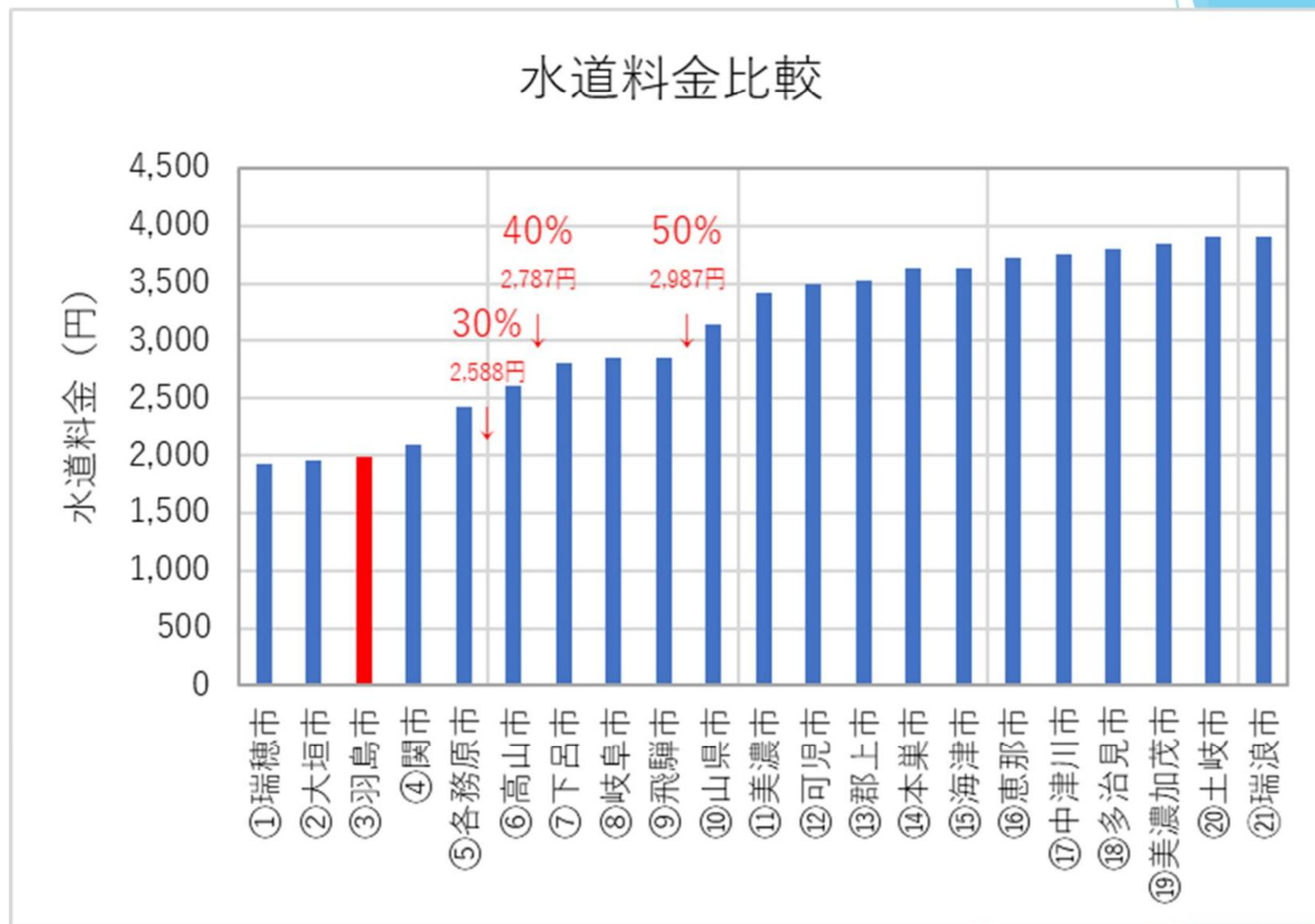


図4.4 料金改定後の県内水道料金順位
(令和8年度、20m³/月の料金、岐阜県内の市)

5. まとめ

【課題】

- ・人口減少に伴う料金収入の減少
- ・基幹施設、基幹管路の長期的な耐震化整備
- ・配水管の老朽化が進行

【対応方針】

水道料金の改定により必要な財源を確保し、計画的な整備を推進

【本計画の整備内容】

- ・基幹施設、基幹管路の耐震化を推進
- ・老朽化した配水管を計画的に更新

ご清聴、ありがとうございました。

【今後のスケジュール】

○次回の審議会（2月予定）

◆令和9年2月予定の審議会において料金改定率を決定

○令和9年度の審議会（料金体系の審議）

◆料金体系の設定

- 設定料金の方針を明確化
- 費用の固定的経費・変動的経費への分解
- 料金構成設計（基本料金・従量料金の算定）
- 収支試算・影響分析



○令和10年度 ●議会（議案上程） ●市民周知



●令和11年4月～ 料金改定

「スケジュール表」 (案)

実施時期	令和8年度			令和9年度			令和10年度		令和11年度
実施内容	R8.8.18 第一回審議会 (新水道ビジョン・料金改定) (諮問)	R8.12 パブリックコメント (新水道ビジョン案)	R9.2 第二回審議会 (新水道ビジョン・料金改定) (答申)	R9.8 第一回審議会 (料金体系の設定) (諮問)	R9.11 第二回審議会 (料金体系の設定)	R10.2 第二回審議会 (料金体系の設定) (答申)	R10.9 議 会 (議案上程)	R10.10 市民周知 (説明会・広報・HP)	R11.4~ 料 金 改 定
	◆料金体系の設定 ●設定料金の方針を明確化 ●費用の固定的経費・変動的経費への分解 ●料金構成設計 - 基本料金・従量料金の算定 ●収支試算・影響分析								